

## 共存在企業研究会 開催のご案内

(場の研究所事務局)

場の研究所は、日本ナレッジ・マネジメント学会の後援を得て、12月12日(土)、共存在企業研究会を開催します。時代の大きな流れが、「所有」から「存在」へ急速に移っています。それには共存在原理に基づく新しい企業活動が必要です。近代企業の柱である競争原理を乗り越えた共存在原理の企業活動は、企業、地域社会、国家、生態系、地球が存続し発展していくために社会的な共存在ネットワークを創出していくことであると考えます。

場の研究所の清水博先生の基調講演をもとに、企業における具体的な問題に即して、どのようにして競争原理の壁を乗り越え、共存在原理をベースとした戦略の共創を考えていきます。

- ・日時：2015年12月12日(土) 13:30-18:00(予定)
  - ・会場:エーザイ株式会社本社ホール / 東京都文京区小石川 4-6-10
  - ・プログラム: 清水先生の基調講演、セッション、レセプション等を企画
  - ※プログラムの詳細や申込みにつきましては、ホームページに掲載予定です。
- NPO 法人場の研究所 HP:<http://www.banokenkyujo.org>



清水 博 NPO 法人「場の研究所」所長 / 東京大学名誉教授  
【略歴】

1932年愛知県生まれ。薬学博士。東京大学医学部(薬学科)卒業、同大学院修了後、東京大学理学部助手、千葉大学文理学部助教授、九州大学薬学部助教授、ハーバード大学研究員、スタンフォード大学研究員、九州大学理学部教授、東京大学薬学部教授、金沢工業大学「場の研究所」所長・同大学情報工学科教授を歴任し、2004年よりNPO 法人「場の研究所」所長(理事長)。

主な著書に『生命を捉えなおす』(中公新書)、『場の思想』(東京大学出版会)、『コペルニクスの鏡』(平凡社)、『<いのち>の普遍学』(春秋社)、『近代文明からの転回』(晃洋書房)など。

### 共存在企業研究会の開催にあたり

近代文明は科学を柱にして非常に発展してきた。しかし、科学の大きな特徴として人間の主体性や意味性という主体的領域(内在的世界)を取り扱わない条件のもとで捉えることができる「主客分離的現象」のみしか取り扱えないという性質がある。このことが一方で科学的発見に客観性を生み出すと同時に、他方において人間の主体的な問題を取り扱えないという論理的限界を生み出している。(科学が主体的領域に少しでも踏み込もうとすると、量子力学でよく知られているように不確定な状態が出現する。)またこのことが情報の科学技術から主体的領域から生まれる「情報の意味」を閉め出しているし、近代医療に限界を与えて、職場で発生する心身症、老化にともなっておきる認知症、孤独死、終末期における医療などのように、個人の主体性と意味性に関する領域に手を差しのべられない限界を与えている。

人間の主体的領域から分離されているという特徴は、また近代の社会科学に限界を与えている。その社会科学を論理的な基盤として成り立っている現代社会の法律、政治、経済にも、大

きな影響を与えている。この影響を受けている近代文明社会の特徴は、個人や法人が社会的に認められたルールの下でその支配領域を競争原理によって拡大していく権利と自由をもっていることである。そのためには主体がもっている価値や意味が同質であることを前提にする必要がある。そして、その権利と自由を守るために、異質の価値観や意味づけをもつ存在を、力によって排除していくのが近代社会である。言い換えると、価値観や意味論を異質にしている主体が共に存在できる状態をつくり出す共存在原理を、近代社会はもっていないのである。また自分たちの競争原理にしたがわない異質な存在を力によって排除する方法しか知らない近代文明社会は、民族や宗教・宗派の間の紛争を拡大することはできても、鎮めることはできない。ここでは競争を否定しているのではなく、競争が競争原理によって支配されていることが問題なのであり、共存在原理の下でおきる競争は創造的発展のために必要なのである。

人間が自分たちの独力で地球の上に存在しているのではなく、多種多様な生きものが地球の上に共存在してきたことによって、現在、人間も存在しているのである。異質を排除することしか知らず、価値観や意味論の異なる多様な生きものと共存在する原理を知らない人間は、そのために自分自身が地球の上で持続的に存在することができない状態、すなわち持続可能性の問題をつくり出しながら、その真の原因から目を逸らしているのである。もはや、より多く占有するための競争を方法とする近代文明の発展原理そのものが、存在の持続可能性に根本から矛盾することを認めないわけにはいかない。すでに、持続性のある存在を異質の主体の間につくり出すことができる共存在原理の発見と、その原理によって地球社会を構築することが、文明の主題となっているのである。

すでに、「より多くもつことから、共に生きていくこと」に向かって、人びとの生活が底辺から変化し始めている。このことが消費の行き詰まりの形で、先進国の市場経済に深刻な影響を与え始めており、表層におけるマネーの見かけの動きと、庶民の生活の実相の間に矛盾が生まれ、バブル経済がはじけた前に現れた表層経済と実態経済の間のギャップに似た状況が生まれている。それでは、どうすればよいか、そのための方針を立て、そして具体的に行動を考えなければならない状態にある。

まずは、地球における存在の持続可能性をつくりだす共存在原理とは何かを、たんなる言葉だけではなく、その具体的内容を論理的に明らかにする。そして情報技術、モノづくり、医療の分野において、共存在原理を活用する共創的方法を発見的に研究する。

-----  
-----

今般、エーザイ株式会社のご協力で、このような会合が開催されますので、これからの地球規模での会社のあり方について、皆さまと共に議論し、また将来へのアクションへつなげていきたいと思っております。お集まり頂いた各企業の皆さまと共創の場をクリエーションしていければと考えております。

場の研究所 清水 博